

# 警備現場の隊員管理でこんなお悩みありませんか？

隊員からの上・下番報告の電話が集中し、管理が大変



勤務実績から手作業で請求書を発行

隊員のシフト確認をアナログで集計

## 「カンタン」操作で、お悩みをすべて解決！

プロキャス警備は、このようなお悩みを解決できるオールインワンシステムです。  
自動でシフトを管理し、上・下番報告がボタン1つで完結され、隊員の登録情報を全社で共有できます。

これにより、自社の業務効率化を実現します。

レポートのカスタマイズ自由



前日の勤務確認や上番・下番報告も電話いらず！

隊員は当日あらかじめ設定した起床・出発時間に自動で通知が届き、上番・下番をボタン1つで行なうことができます。



隊員配置機能



上下番管理機能



請求書作成機能



給与管理機能  
警備報告書提出機能

### 警備業界のDX! クラウド管制システム **プロキャス 警備**

導入者数 **200** 昨対比 %増

IT導入補助金認定ツール

管制業務時間 月間 **60** %削減

業界最安 水準

※隊員90名、管制担当者3名の場合

**TEL.03-6278-7379**

<https://pro-cas.jp/keibi/>

プロキャス警備 検索



株式会社PROCAN

〒104-0045 東京都中央区築地3丁目11番6号 築地スクエアビル8階  
Mail: info-procas@procanc.co.jp

試用版アプリ配信中！



# 警備業界

**DX** マガジン  
Ver.5

## 特集

### 【現役警備員に聞いた熱中症対策実態調査】

## 20代警備員の3人に2人が「熱中症経験」 本当に効いた現場の暑さ対策とは

### お客様の声

シフトも配置も一発完了！  
約2週間で実現した管制業務の“見える化”



関東警備株式会社

代表取締役 出口氏



## 【現役警備員に聞いた熱中症対策実態調査】

# 20代警備員の3人に2人が 「熱中症経験」本当に効いた 現場の暑さ対策とは

2025年6月1日、事業者に対して職場での熱中症対策が義務化されました。

また、屋外作業や長時間勤務を伴う警備員の仕事では、猛暑による体調不良や安全リスクがかねてより課題とされてきました。

今年も厳しい暑さが予想されるなか、全国の現役警備員131人を対象に「熱中症対策の実態」や「役立った対策」などについて調査を実施。現場視点でのリアルな声から、官民連携で熱中症予防の声かけを推進している「熱中症予防 声かけプロジェクト」専門家とともに、警備業界に求められる支援や改善の方向性を探ります。

### ■調査概要

【調査方法】インターネット調査

【調査地域】全国

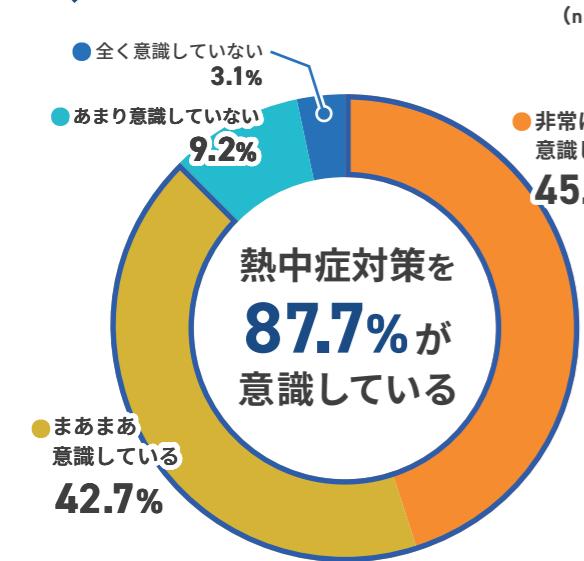
【サンプル数】131人

【調査期間】2025年6月25日(水)～6月26日(木)

【調査対象】47都道府県在住の警備業就業経験者20代以上の男女

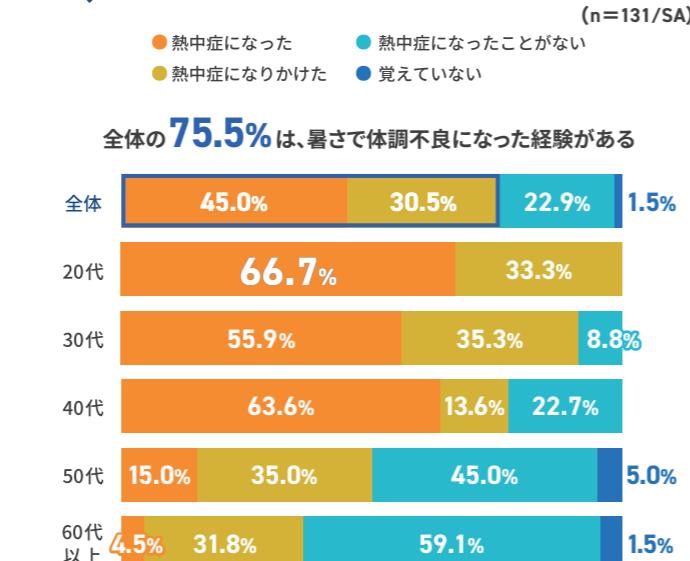
## Q1

今年の熱中症・暑さ対策に対して  
どの程度意識していますか？



## Q2

現場で熱中症になった経験は  
ありますか？



暑さ対策への意識は高水準  
「意識している」約9割

→ 警備員一人ひとりが、暑さ対策の  
重要性を実感し、自ら工夫や準備を行  
っている意識の高さがうかがえる結果に

「暑さで不調」経験は7割超  
20代の3人に2人が「熱中症になった」と回答

→ 年代別の傾向は、警備業界における  
熱中症リスク対策の重要性を再認識

## 熱中症予防 声かけプロジェクト ～ひと涼みしよう～

飲み物を持ち歩こう



株式会社PROCANは  
熱中症予防声かけプロジェクトを  
応援しています



熱中症対策が“義務”となつたいま、求められるのは「個人の工夫」ではなく「仕組みとしての現場支援」です。

暑さと向き合うこの夏、警備業界の現場支援がどこまで進化できるかが問われています。

プロキャスは官民連携で熱中症予防の声かけを推進している「熱中症予防 声かけプロジェクト」に参加し、こうした様々な発信を通じて熱中症予防を呼びかけてまいります。

【熱中症予防 声かけプロジェクト】 <https://www.hitosuzumi.jp/>



## 若年層もリスク大。

対策は“仕組みと気づき”的両輪で

熱中症予防声かけプロジェクト  
発起人兼事務局長 热中症対策アドバイザー

山下太郎 様

暑さが厳しい季節、とくに炎天下での交通誘導や施設警備では、高温多湿・直射日光下での長時間勤務が避けられず、体調管理がより重要になります。

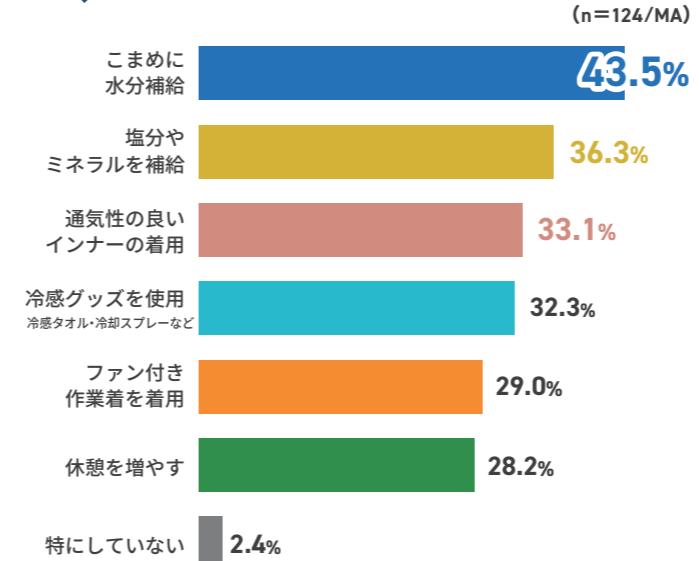
本調査でも、9割以上の警備員が暑さ対策を意識して取り組んでいることがわかりましたが、一方で、20代では約7割が「熱中症になった経験がある」と回答しており、“意識していても防げない”のが熱中症の怖さだと感じます。

暑さに対する知識や対策だけでなく、プロキャス警備のアプリのようなチャット機能を使用するなど工夫しながら声かけ・定期連絡や体調報告を仕組み化し、無理をしないための習慣を現場全体で共有することが、事故を防ぐうえでも非常に大切です。



## Q3

現場で役立ったと思う熱中症・  
暑さ対策はありますか？



実際に役立った暑さ対策  
「こまめな水分補給」がトップ

→ “実感値”が高いのはシンプルで確実な  
対策ともいえる水分補給や塩分補給。  
基本的なケアの徹底こそが、夏場の警備を乗り切る第一歩！

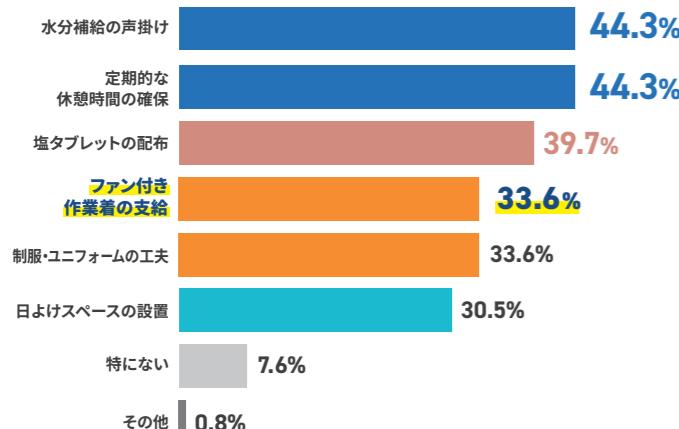
# ファン付き作業着は支給と自費が半々 支給希望NO.1は「冷感スプレー」

アンケート結果  
見てみてや～!

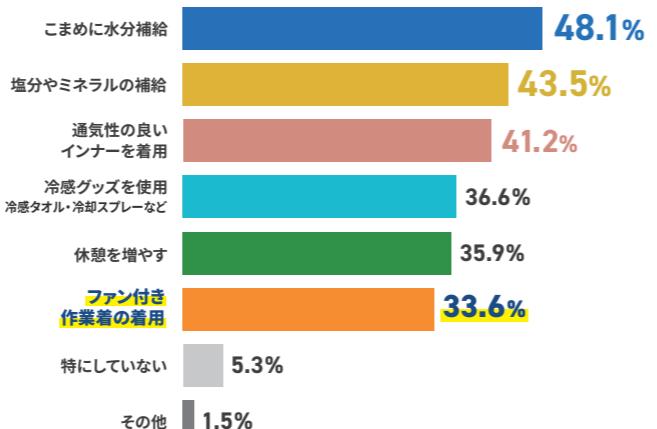
## Q4 熱中症・暑さ対策に対して、「警備会社の取り組み」と「あなた自身で行っている取り組み」を教えてください

(n=131/MA)

あなたが勤務する警備会社での取り組みはありますか？



あなた自身で行っている取り組みはありますか？



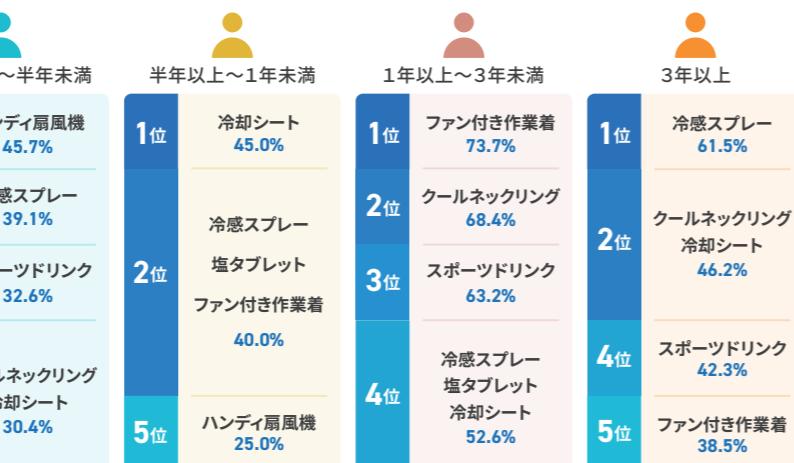
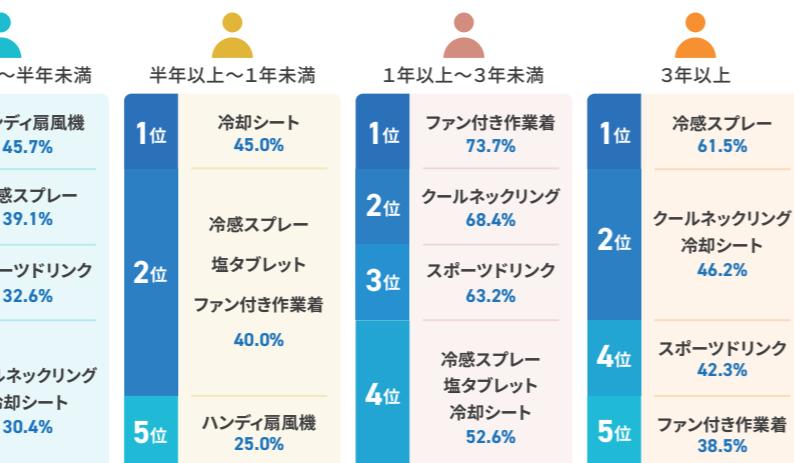
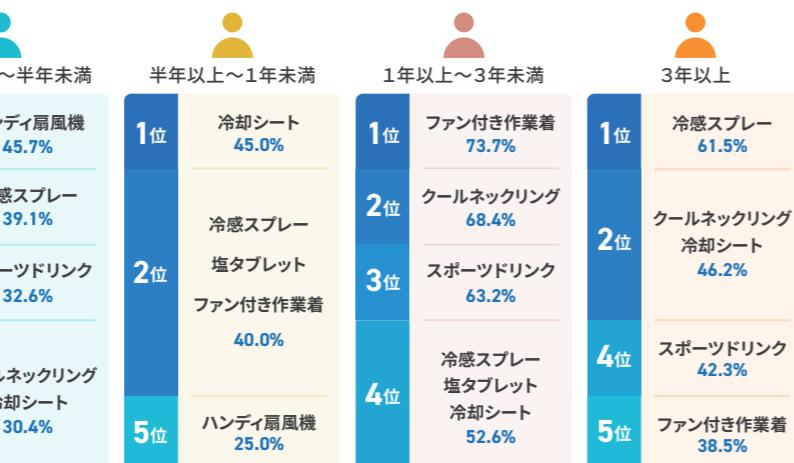
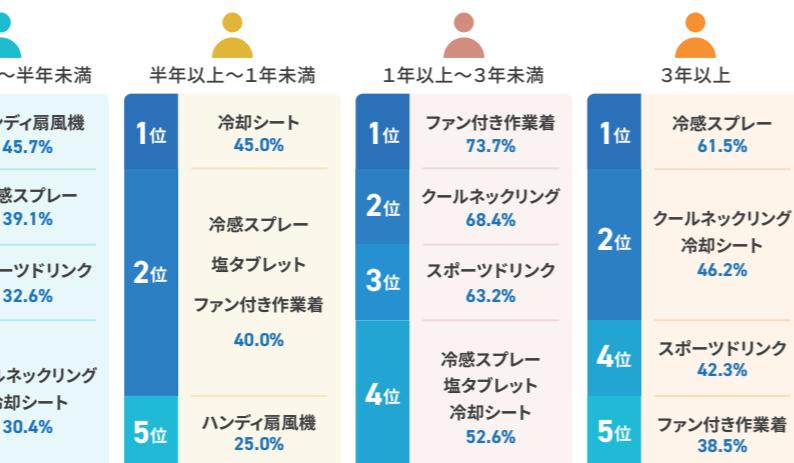
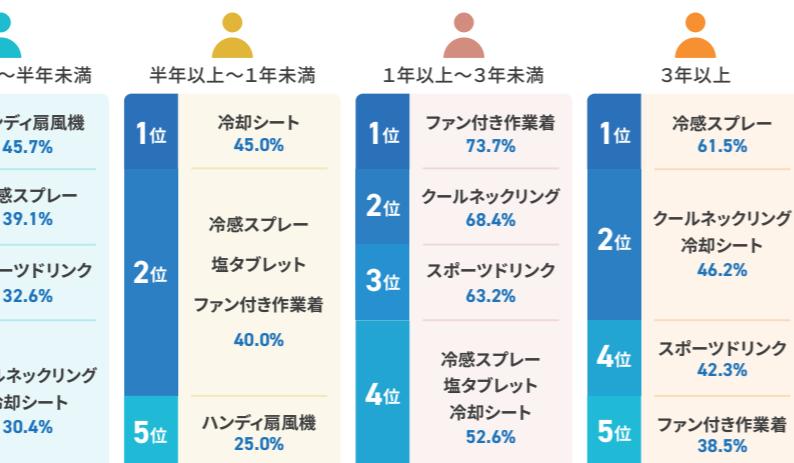
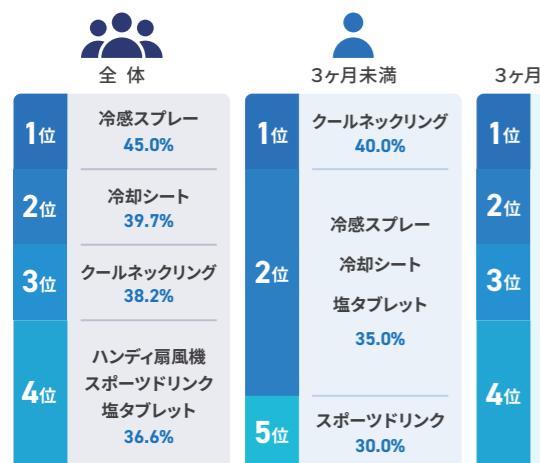
企業の基本的な熱中症対策は進むもファン付き作業着は“支給”と“自腹”が拮抗

→ 手軽に取り入れやすい対策を自主的に行っている。

一方で、ファン付き作業着は、高額な装備であるにもかかわらず個人の判断と負担に任せられているケースも少なくない。

## Q5 現場で支給して欲しい暑さ対策グッズは何ですか？

(n=131/MA)



支給してほしいアイテムNo.1は「冷感スプレー」一方で経験による違いも

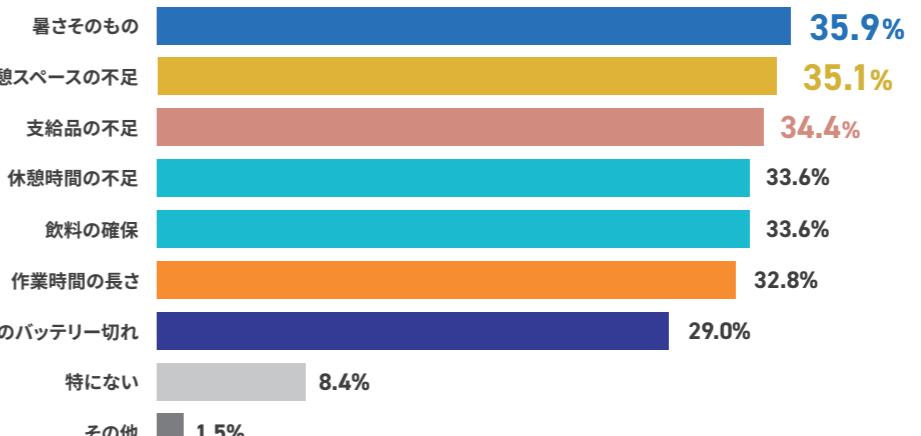
→ 支援は“一律に全員へ”ではなく、経験や職務の特性に応じてカスタマイズできるよう、現場のリアルな声を聞いてサポートする必要がある

続いて、現場で求められる「装備面での支援」や「支給の実感」に焦点をあて、冷感グッズのニーズやファン付き作業着の導入状況、経験年数による支援希望の違いなど、現場のリアルな声から“支援のかたち”をひも解きます。



## Q6 現場で困っていることはありますか？

(n=131/MA)

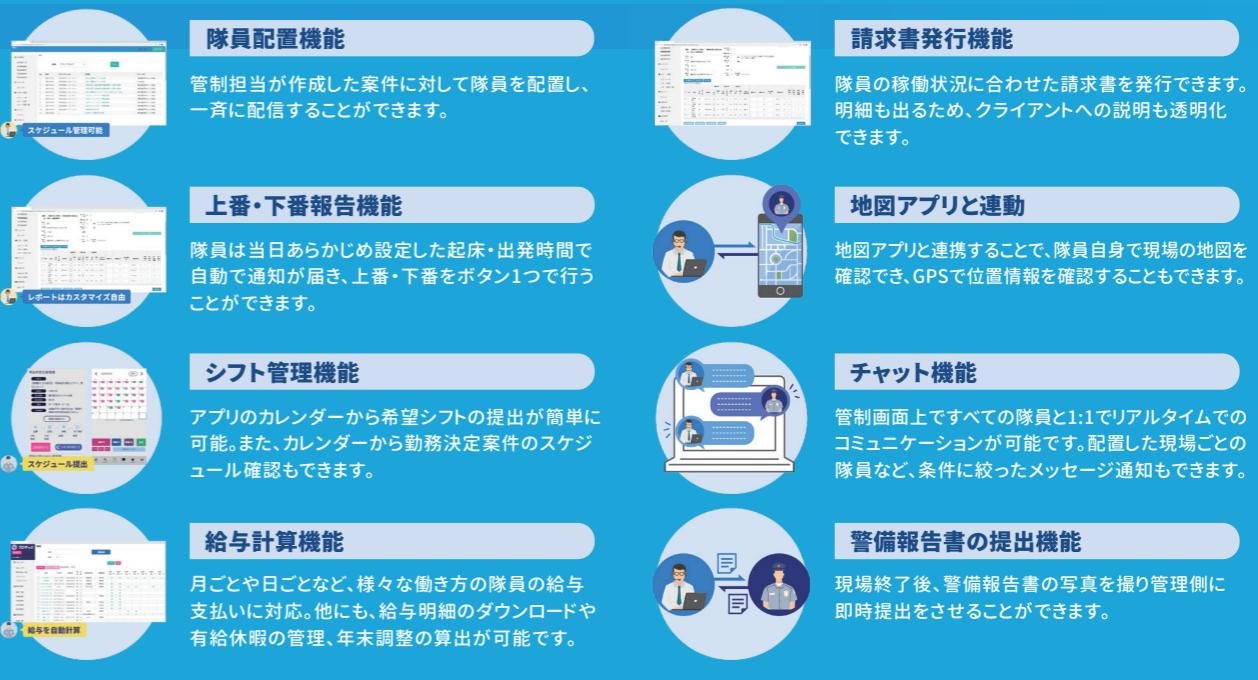


暑さも休憩も支給品も…！ 現場の困りごとは多岐にわたる

→ 困りごとが特定の項目に集中しているわけではなく、暑さ対策における複数の側面が同時に課題として存在している

### 管理者・警備員、双方に寄り添い”無理のない体制づくり”をサポート

警備業界に特化したクラウド型管制システム「プロキャス警備」は、シフトや勤務時間の管理を通じて、現場の稼働状況を見える化し、情報の共有や連携をスムーズにします。勤務の偏りや負担を減らしながら、暑さ対策もしやすい“無理のない体制づくり”をサポートします。



# シフトも配置も一発完了!

## 約2週間で実現した 管制業務の見える化

### ■企業概要

【企業名】関東警備株式会社

【事業内容】施設警備・雑踏警備・イベント警備・交通誘導警備 等



代表取締役  
出口 育信氏

「安心・安全・信頼」を掲げ、施設警備・交通誘導・イベント警備など幅広い業務を手がける関東警備株式会社。同社はこれまで、各拠点の管制担当に任せきりだったシフトや配置の管制業務がブラックボックス化しており、社内でも全体像を把握しづらいという課題を抱えていました。そんな中、社内体制の転換期を機にクラウド管制システム「プロキヤス警備」を導入。属人化していた業務の可視化と効率化を一気に推進し、現場と本部の連携強化、負担軽減を実現したといいます。今回は、同社の代表取締役 出口 育信さん、取締役 今関 智明さんに、どんな手順でシステムへ移行し、どのように活用されているのかについてお話を伺いました。

### 警備業界に特化した管制業務の「一元管理」が導入の決め手

#### 導入前の管制業務に関する課題を教えてください

出口さん：プロキヤス警備を導入する前、関東警備ではシフトや原価などの情報管理をExcelや紙で行っていました。管制担当が各支店と本社に一人ずつ配置されていたものの、業務が属人化しブラックボックスみたいなものでした。どこの現場に誰が行っているのか把握できず、非常に仕事がしづらかったと聞いています。

今関さん：現場スタッフの上下番報告は日報、遅刻連絡は電話ベースで、情報の即時性や正確性にも課題がありました。

#### プロキヤス警備の導入のきっかけは何ですか？

出口さん：約半年前に、前社長と管制担当が同時に退職するという転換点がありました。そんなタイミングで、プロキヤス警備の営業の方が来てください、警備業界に特化したシステムだと話を聞く中で、管制業務に加えて請求書の発行や給与計算まで一元管理できる点に惹かれました。まさに渡りに船でしたね。

今関さん：隊員の中には高齢でスマホも持っていない方もいるのでITツールを使いこなせるのか…という心配も、もちろんありましたが「ガラケーでも使える」点も良かったです。今や使いこなせていない人もいないし、現場からの評判も良いです。

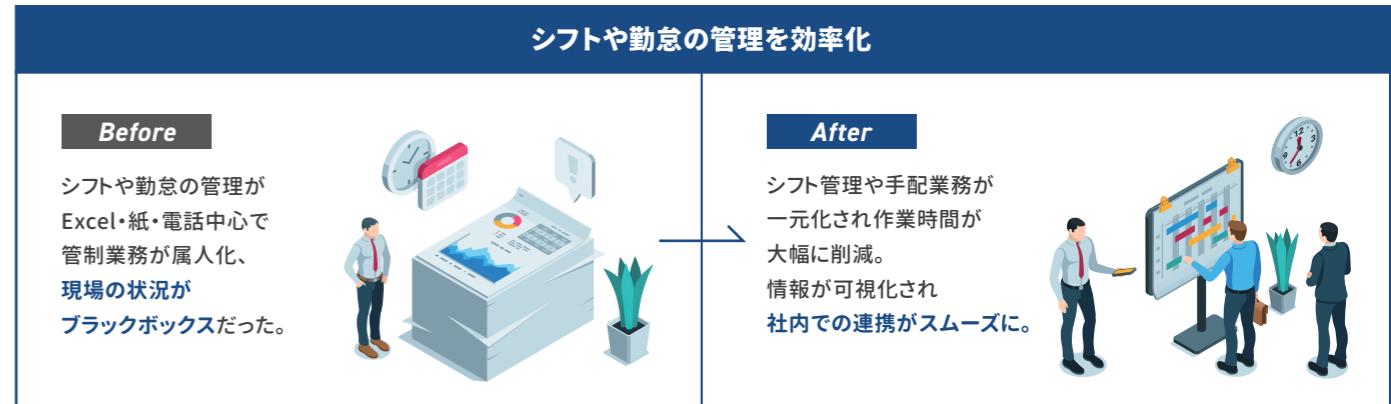
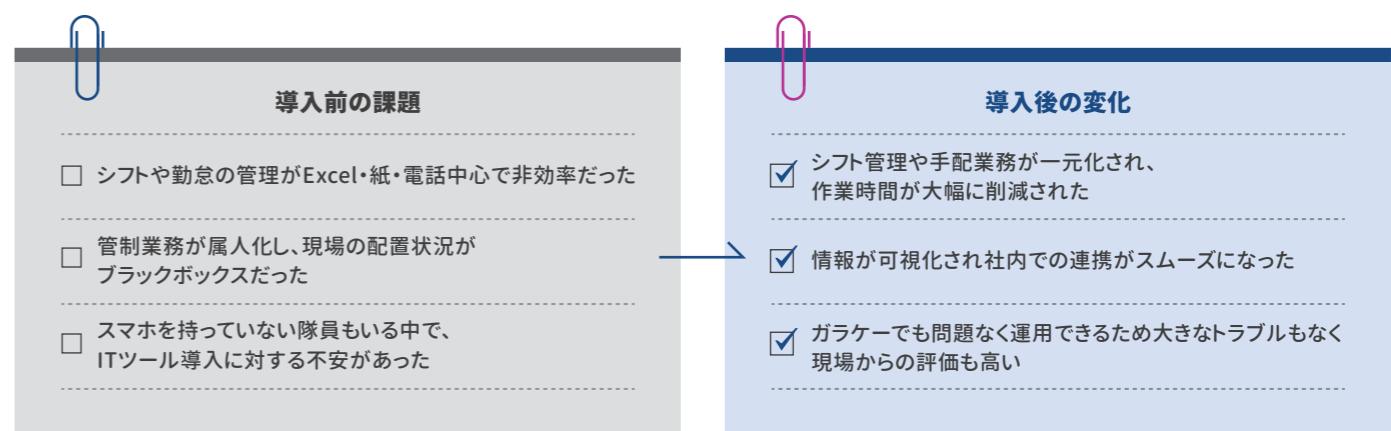
出口さん：将来的には、社労士に依頼している給与計算のコスト削減にもつなげたいという点も視野に入れ導入を決断しました。

### 手作りマニュアルと勉強会で定着を促進！コミュニケーションの場としても活用

#### 隊員たちの反応はいかがでしたか？

出口さん：導入後は、警備業務を終えた隊員の皆さんに社内の研修室へ集まってもらい、勉強会を実施しました。関東警備の隊員の最高年齢は76歳ですが、最近は採用活動も再開し、20代の若い隊員も加わっています。平均年齢は40代と、業界内では比較的若い方かもしれません。そういった背景もあってか、移行期間は約2週間と非常にスムーズでした。

今関さん：当時は社長自らがPowerPointでオリジナルマニュアルを作成し、勉強会で説明していましたね。中には22時近くまでかかった日もありましたが、隊員と直接顔を合わせ、不満や不安の声を聞き取れる貴重な機会でもありました。コミュニケーションの場としても非常に良いタイミングだったと感じています。



### シフト提出は"一発登録"で業務の劇的効率化に



#### 導入から約半年たちますが、活用が定着し業務改善効果は感じられますか？

出口さん：これまでは、隊員が提出したシフトを管制担当がExcelに入力し、各現場へ落とし込むという工程がありましたが、今はその作業が一切不要になりました。一発でシステムに反映されるので、作業時間は劇的に短縮されています。これまでブラックボックスだったものが「見える化」されたことも非常に助かっています。

今関さん：数字での定量的な評価はこれからですが、管制業務に関しては感覚的にも確実に“ラクになった”という実感があります。今は、管制担当と給与計算・請求書管理担当と大きく分けて2人で行っていますが、今後は一緒にして1人で担当しても良いかなと思っているところです。その実現に向けて、今後は給与計算機能の本格運用も予定しており、さらなる効率化を期待したいです。

### 「導入してよかったです」現場で実感した手応えと広がる業界の反応

#### 最後に、導入を迷っている企業へメッセージをお願いできますか？

出口さん：他社がどのような運用をされているのかにもよると思うのですが、関東警備としては、これまで大きなトラブルもなく導入して本当に良かったと感じています。最近では、知り合いの警備会社でもプロキヤス警備を導入したという話を隊員さんから聞きました。

今関さん：警備業界は狭い世界ですから、良いと思われるシステムは口コミで広まることもあります。今後もプロキヤスにはぜひ良い形で進化を続けてほしいですね。機能改善やアップデートにも期待しています。